

[果樹部門]

12. パダンSG水溶剤によるブドウのクビアカスカシバの防除対策

[要約]

ブドウに発生するクビアカスカシバに対し、6月下旬にパダンSG水溶剤1500倍液を1回散布すると、幼虫による被害を慣行防除の3～4割程度に削減できる。

[担当] 病虫研究室

[連絡先] 電話086-955-0543

[分類] 技術

[背景・ねらい]

近年、県下でクビアカスカシバ幼虫によるブドウ樹の被害が発生している（図1）。そこでクビアカスカシバに適用拡大されたパダンSG水溶剤の、防除効果の高い散布時期及び回数を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 慣行防除にパダンSG水溶剤を6月下旬から1～3回追加散布すると、8月下旬～9月上旬の虫糞排出ヶ所数は慣行防除に比べて3～4割程度に削減される（図2、3）。
2. 散布回数によって防除効果に差は無く、6月下旬の1回散布で高い防除効果が得られる（図2、3）。

[成果の活用面・留意点]

1. パダンSG水溶剤の使用基準は収穫21日前まで、使用回数は5回以内である（平成23年5月11日適用拡大登録時）。
2. 本剤は果粉溶脱の懸念があるため、果面に直接噴霧しない。
3. 本剤は3週間間隔で複数回散布しても防除効果は顕著に向上せず、有用昆虫（天敵）にも殺虫力があるため、安易に使用回数を増やさない。
4. 本剤を散布しても定期的に虫糞の排出状況を観察し、食入幼虫の捕殺を行う。

[具体的データ]



図1 クビアカスカシバ雄成虫（左）・老熟幼虫（中央）・被害部の様子（中央・右）

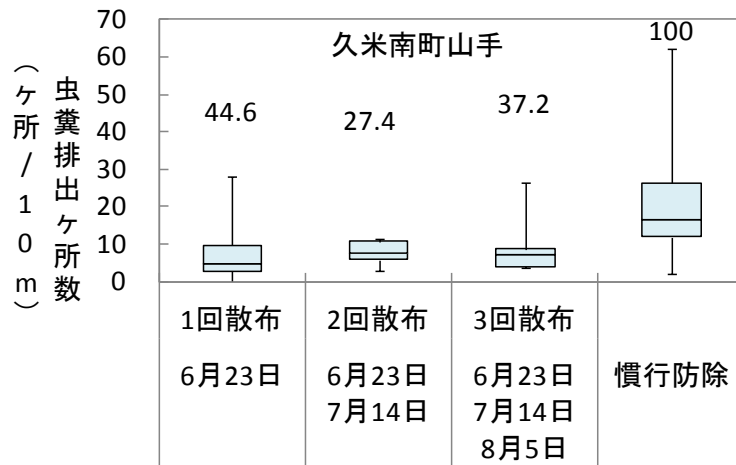


図2 パダンSG水溶剤の散布回数が虫糞排出ヶ所数に及ぼす影響（久米南町）

※図中の数値は5反復の合計値の対慣行防除比（当該区÷慣行防除区×100で算出）

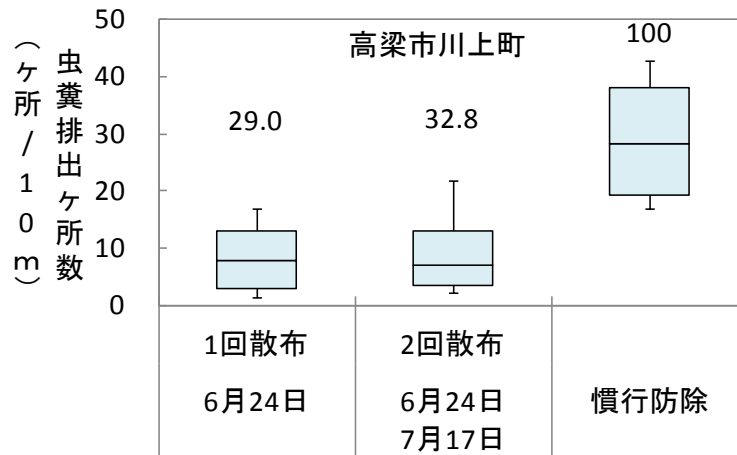


図3 パダンSG水溶剤の散布回数が虫糞排出ヶ所数に及ぼす影響（高梁市）

※図中の数値は4反復の合計値の対慣行防除比（当該区÷慣行防除区×100で算出）

[その他]

研究課題名：ブドウのクビアカスカシバの発生生態の解明と防除対策

予算区分：交付金（病害虫防除農薬環境リスク低減技術確立）

研究期間：2009～2011年度

研究担当者：高馬浩寿、佐野敏広

関連事項：平成23年度試験研究主要成果、39-40